子どもの表現を助長する劇の効果音
－音楽表現の視点から－

桂山たかみ　松本亜香里　岸田恵＊　宮田美佐＊＊

要旨

本研究は、幼稚園や保育所、認定こども園等保育現場で行われる劇を想定し、保育者養成校の音楽教員の立場から一冊の絵本の台本起こしおよび効果音・ＢＧＭの創作を行ったものである。近年保育者養成校の入学者のほとんどがピアノ初学者であり、在学期間に譜面を使用せずにアレンジをすることが困難なことから、鍵盤楽器（ピアノやオルガン、エレクトーン等）を使用する場合は難易度別に譜面を作成した。さらに、鍵盤楽器を使用しない場合の効果音やＢＧＭも創作し、台本の使い手が自由に選択できるよう工夫する。台本については、セリフや準備物、効果音やＢＧＭに加え、動作も入れることにより、より新任の保育者でも場面がイメージしやすいよう配慮した。

今後は、身体、造形、音楽、言葉表現を、どのように遊びとつなげ、子どもたちが主体的に活動することができる環境を設定するか検討したい。

キーワード：子どもの表現，劇あそび，音楽表現，効果音，ＢＧＭ

１．はじめに

幼稚園や保育所､認定こども園等保育現場では､オペレッタや劇に取り組むことがある。活動を通して子どもたちが表現する楽しみを味わったり、セリフを覚え演じることをやりきる達成感を味わったり、友達同士協力して作品を作り上げたり、自分以外の園児の出番の時に静かに待ったりするなど､様々な姿が育まれることが期待される｡言うまでもなく、発表当日の体験に加え作品を作り上げるまでの過程にも多様な学びがあり、劇を演じる子どもの姿や劇の組み立て、小道具や大道具などにわたり、保育者が題材を取り上げるまでの思いや工夫がうかがえる。

劇の題材は、既成の劇の台本を活用することもあれば、園児たちが普段好んで読んでいる絵本から台本起こしをしたり、話そのものを子どもたちと創作したりすることもある。後者二つの場合、場面の環境設定や効果音などの創作は自身で行わなければならない。

本研究では、保育者養成校の音楽教員の立場から一冊の絵本の台本起こしおよび効果音・ＢＧＭの創作を行う。桂山は台本起こしおよびＢＧＭ・効果音の作曲を、岸田と宮田は脚色および編曲を、松本は分析および考察を行った。

＊非常勤講師（岸田ピアノ教室）　＊＊非常勤講師（朝日楽器）

２．題材について

２．１．選択理由

毎年数多くの絵本が出版される中で、子どもたちが触れる絵本の選書は保育者によってさまざまである。選書の視点については、子どもたちの発達や、行事や季節、メッセージ性、知育を意識したり、園で読み継がれていたりするものが挙げられる。筆者が研究してきた保育現場の読み聞かせに関するアンケート調査では「昔話」以外の絵本が多く取り上げられていた。しかし、自分が幼少期に読んでもらった絵本の中で印象に残っている絵本では、多くが昔話を挙げていた。発表会等における劇については、昔話を題材に選んでいる園は少なくない。

昔話は、わらべうたのように語り継がれていく中で言い回しや話の流れが変化していくことがある。しかし、子どもに読み聞かせる絵本において現代ではそれ以外に、昔話にある悪者を死に追いやったり残忍な方法で仕返しをしたりするという結末を避ける傾向が見られる。結末のアレンジは、本によりさまざまである。本研究では、いくつか出版されている昔話に関する劇の台本の中でも希少な『さんまいのおふだ』を研究対象とする。子どもの想像力を育むという観点から残酷な結末を伝えることも危機管理能力につながることを目的とし、出版されている『さんまいのおふだ』の絵本の中で結末がアレンジされる以前のものを使用する。

２．２．子どもが昔話に触れる意義

昔話は、昔から語り継がれてきた話で、生活の中から生まれたものである。目に見えない物を信じることや、生や死について知り、想像と現実の生活とを関連づけることへつながる。また、貧困や弱い立場の者が、苦境から努力を重ね報われるという善悪の道徳的な育ちへもつながっている。その一方で、たまには怠けたり嘘をついたりすることもあることも、言葉で伝えることは困難でも、話の中で感じ、学ぶことへもつながる。

絵本や紙芝居には、勇気や信頼、優しさ、同情、協力、決断、慎重、発想力、好奇心、冒険心、忍耐力、挫折、責任感など、人間にとって、人生にとって大切なものが詰め込まれている。先にも述べたように、昔話は生活の中から生まれたことから、登場人物と自分、自分の周りの人間を照らし合わせ、想像の中で「自分だったらこうしたい」「自分も見習おう」などと自然と身につけていくことが期待される。ゆえに、時に残酷な場面を柔らかくしたり、残酷な結末を刺激が少ないようアレンジしたりせず、子どもの日常の様子に合わせて、内容を鑑みて選書する視点も必要と考える。

２．３．さんまいのおふだ

『さんまいのおふだ』の話の内容は、「寺の小僧が山へ花切りに出かけ、探すうちに山奥へ入り込み、気がついたら暗くなり帰り道が分からなくなった。迷い歩くうちに明かりのつく家を見つけ泊めてもらうよう尋ねた。そこに住む白髪のお婆が寝入った小僧を食べようとして、小僧が便所に行き、逃げ出そうとする。そこに現れた便所の神が三枚のお札を小僧に渡し、小僧がそれを使い逃げる。やっとの思いで寺に着いた小僧は和尚に助けを求め、和尚がお婆に術比べをし、豆になったお婆を食べてしまう。」というものである。

この昔話は、日本全国で語られる昔話の一つで、小僧と和尚、お婆（山姥や鬼婆ともいわれる）が登場し、小僧が逃げながら投げるものはお札のほか、鏡や櫛などがある。このように何か身代わりを立てたり、魔法をかけたりして鬼や化け物から逃げる話を「呪的逃走」といい、日本では古事記からはじまり、世界ではグリム童話などにも同様の昔話が存在する。

本研究で選書した絵本の作者水沢謙一氏は、「さんまいのおふだ」の類話を 400 話ほど集め比較研究し、本作品を再話した。本著は語り口調を生かしたことにより、スリルとユーモアを兼ね備えたものとなっている。

３．方法

福音館書店の『さんまいのおふだ』からセリフや場面を抽出し、流れに合わせた効果音やＢＧＭを創作する。近年保育者養成校の入学者のほとんどがピアノ初学者であり、在学期間に譜面を使用せずにアレンジをすることが困難なことから、鍵盤楽器（ピアノやオルガン、エレクトーン等）を使用する場合は難易度別に譜面を作成する。鍵盤楽器が苦手な場合や手元を気にせず子どもや劇全体を見ながら演奏したい場合は、リズム譜のみでも使用できるよう、鍵盤楽器を使用しない効果音やＢＧＭも創作し、台本の使い手が自由に選択できるよう工夫する。

台本については、セリフや準備物、効果音やＢＧＭに加え、動作も入れることにより、より新任の保育者でも場面がイメージしやすいよう配慮する。

４．検討

絵本からの台本起こしにはいくつかの配慮点が必要となる。加用（1990）は、「学生たちが書いてきた脚本通りに練習しますと、どうしてもうまくいかないのです。彼らは脚本を原作通りにつくってきます。（中略）原作は絵と文で書かれていますのでそれなりの雰囲気を出しているのですが、劇にしますと、やるのは生身の子どもたちです。（中略）あれを劇にする場合には、多少のくふうがいるのではないでしょうか。」と述べている。同様に、「２．１．選択理由」でも述べた「子どもの想像力を育む」という観点からも、残酷で不安感を煽る部分は残しながらも、絵本の語り口調を生かした言葉の掛け合いのリズムをテンポよ

く演じたい。そのためのセリフと動きの工夫を台本起こしでは配慮した。

ＢＧＭ『話の始まりや人物の登場の場面』のピアノ譜①-１はピアノ初学者用である。初学者は、音を弱くしたり強くしたりする技術が十分ではないので、音楽による演出でありながら劇の妨げとならないよう、音域を狭く、音も少なく、素朴なメロディとし、演奏技術でバランスを取るよりも、物理的な効果を工夫した。右手が３の指から始まることで２小節は手の移動が生じない。ポジションが上になる３小節目に再び３の指で始めることにより、１・２小節と同じ指使いと幅で弾くことができる。４から５小節目の「ソミソミレ｜ラドドラソ」を「２１２１②｜３５５３２」（②のみ上から返し、すぐ戻す）で弾くことにより、初学者はもちろん、手元を見ずに弾きたい場合にも活用できる。左手は１の指から弾き始め３小節目に１③と返すのみで､ほとんど同じポジションで弾くことができる。①-２は上級者用である｡上級者は演奏技術により劇の引き立てに徹することが可能となるため、音楽に重厚感が出るよう両手の音域を広くしたり、メロディを両手に跨るようにしたりして、メロディラインを広く取るようにした。

『小僧がお婆に追いかけられる場面』のピアノ譜②-１は、ピアノ初学者用である。ハ短調の曲で、低音から始まり、同音の四分音符を力強く刻み、八分音符に切り替え半音上がって次の同音四分音符連打につなぐことにより、臨場感が漂うようにした。左手はそのパターンを繰り返し、右手はパターンを決めず上行下行することにより、不安定感を演出した。②-２は上級者用である。右手は連続した音の装飾を多く用い、左手は低音により不安感を演出するためにオクターブと和音の跳躍を含めた。曲の出だしでは、基礎の音を定め、単音から一音ずつ上行の音を増やしていき、迫ってくる雰囲気を演出した。

効果音のリズム譜①では、歩く表現を、四分音符を一拍ずつ歩く速さで刻むのではなく、付点リズムを用いることにより軽快さを演出した。リズム譜②では、あまだれのセリフを妨げないよう、少しずつ傾け、一定の速さを保つことで、雨がしとしとと降っている情景を思い浮かべられるよう配慮した。リズム譜③では、大太鼓を横にすることでロールを速く激しくしやすく配慮し､場面設定から､太く低い音の楽器を選択した｡リズム譜④では、大きな山になっていく様子を演出するため､長く鳴らし続けることが可能な楽器を選んだ。ラチェットは、このように長く鳴らすことも短く区切ってぜんまいを巻くような音を表現することも可能であり、長さや速さにより多様な場面での使用が期待される。リズム譜⑤では、焦りながら寺の門をたたく様を、ウッドブロックの低い音でなるべく速く、片手で弾く事により臨場感あふれる場面になることであろう。リズム譜⑥では、スライドホイッスルを伸ばした状態（低い音）からゆっくり縮め（高い音)、またゆっくり伸ばすという動作を、お婆が化けている間行い、最後の締めに大太鼓を鳴らすと場面が締まる。この場面のスライドホイッスルは、始まりと終わりは低い音で止めるよう注意したい。反対に始まりと終わりを高い音からにしてしまうと、不安感を煽ったり、怖い雰囲気を演出したりするのではなく、陽気な場面や面白みのある出来事のように感じる。リズム譜⑦では、ラチ

ェットを素早く短く鳴らすことによって、豆をかんだ時の様な乾いた音が出る。短い音を出すには、ハンドルのついたラチェットが望ましい。リズム譜⑧では、お芝居の締めくくり（幕切）として拍子木の代わりにクラベスを使用している。もちろん拍子木があれば言う事はない。

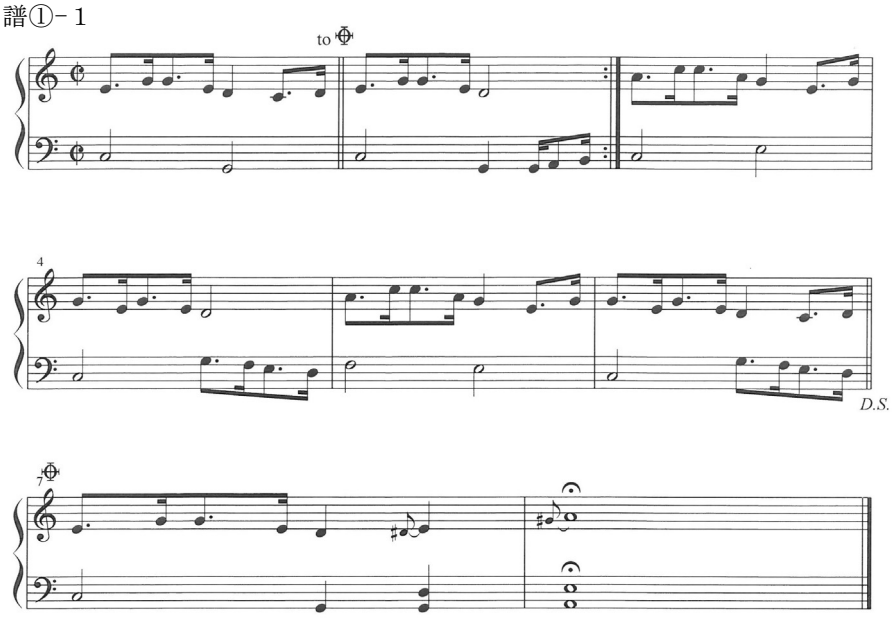
５．まとめ

本研究では『さんまいのおふだ』の話に沿ったＢＧＭや効果音を創作したが、どの話にも合うような、場面ごとのＢＧＭや効果音を考えておくことで、既成の台本や出版書に加えることが可能となる。現在出版されている効果音に関する資料にも場面ごとに創作されたものはあるが、使用楽器の中で、保育現場での準備が困難な場合も見受けられる。ほとんどの保育現場にある楽器や、子どもたちが作ることができる手作り楽器などで演出を考えることも、保育者養成段階で学生と考えることも、必要ではないだろうか。演じることだけが表現でなく、劇を仲間たちと考え作り上げることも、子どもの主体性を育み促すことへつながるであろう。今後は、身体、造形、音楽、言葉表現を、どのように遊びとつなげ、子どもたちが主体的に活動することができる環境を設定するか検討したい。

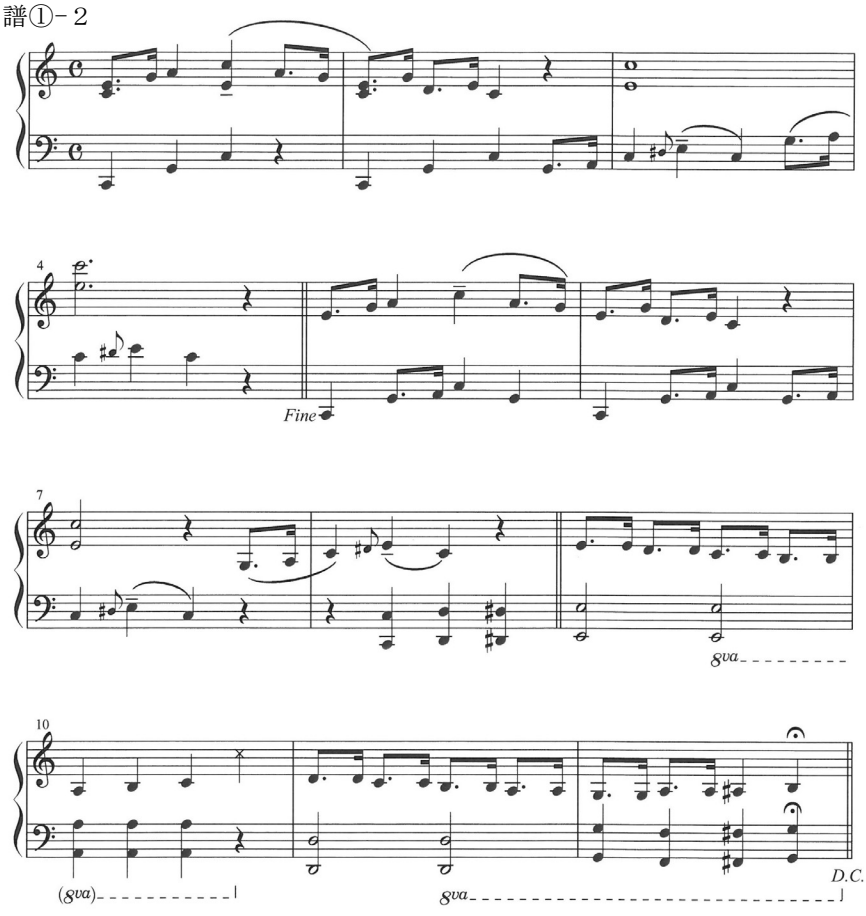
引用・参考文献

（１） 山野栄子・松本亜香里・市川沙織「学生・保育者・お母さんが選ぶ乳児の絵本」（日本保育学会第 63 回大会研究論文集 p. 525、2010 年 5 月）
（２） 山野栄子・松本亜香里「学生が選ぶ乳児の絵本（２）」（日本保育学会第 66 回大会研究論文集 p. 648、2013 年 5 月）
（３） 加用文男「子ども心と秋の空　－保育のなかの遊び論－」（ひとなる書房、pp. 152-157、1990 年）
（４） 水沢謙一・梶山俊夫「さんまいのおふだ－新潟の昔話－」（福音館書店、1978 年）
（５） 松谷みよ子・遠藤てるよ「さんまいのおふだ」（童心社、2008 年）
（６） 千葉幹夫・早川順子「さんまいのおふだ」（小学館、2010 年）

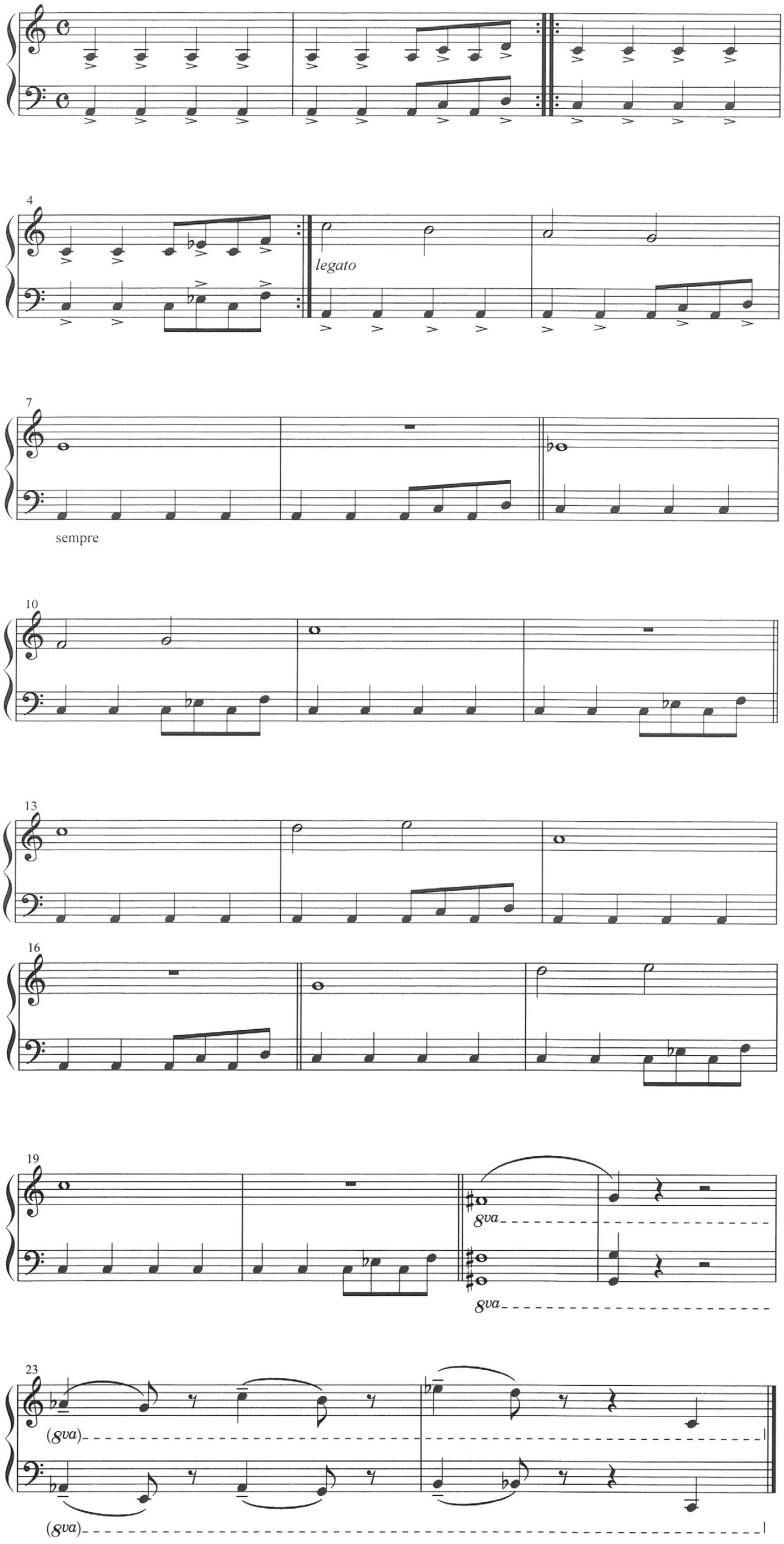
ピアノ譜①-１



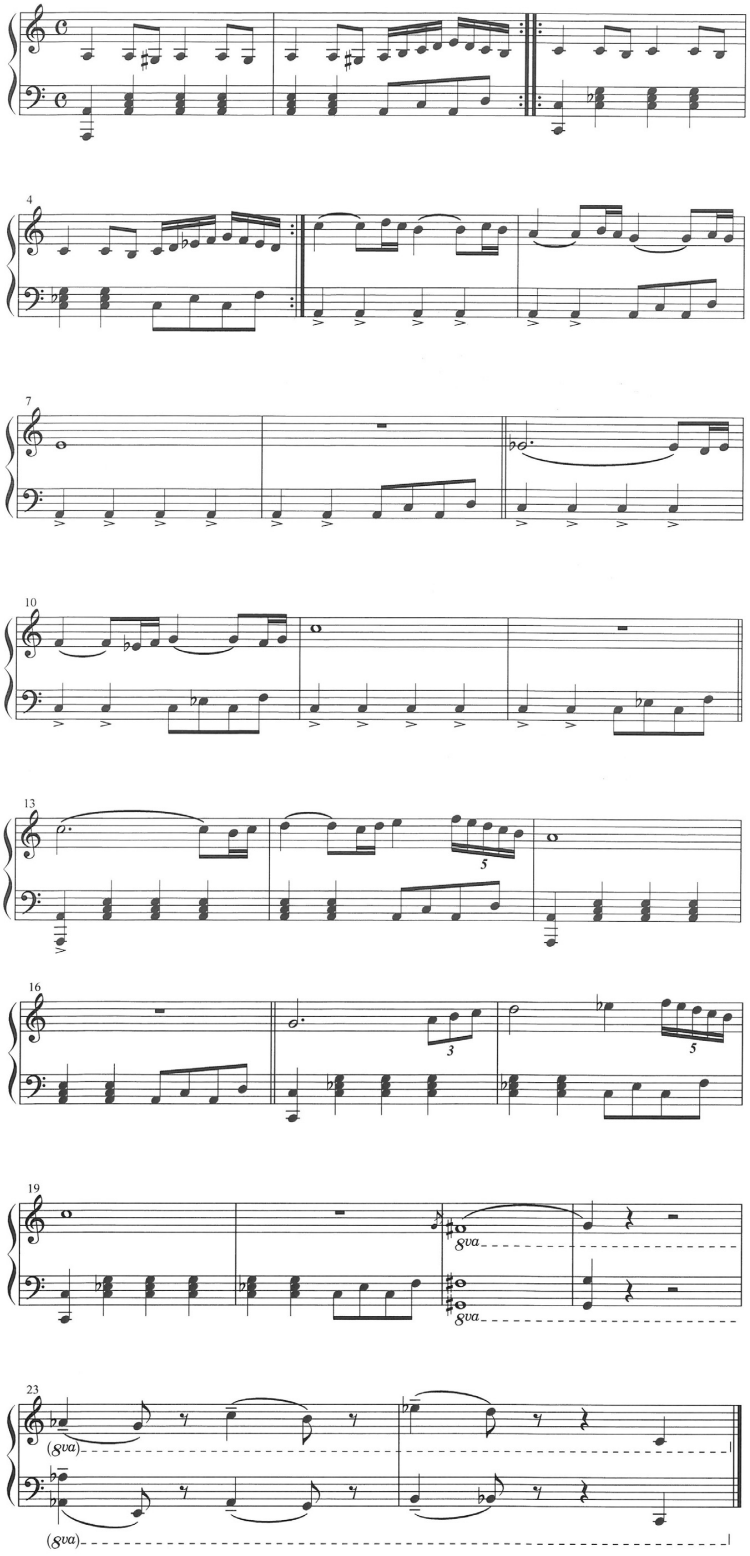
ピアノ譜①-２



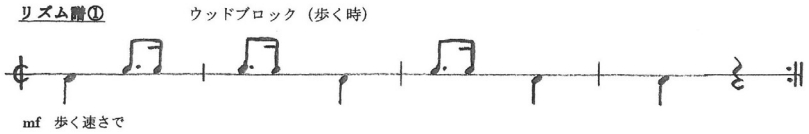
ピアノ譜②-１（全体的にｆで弾く）



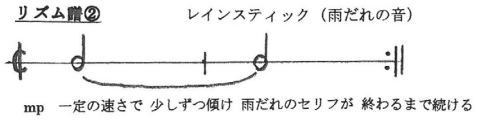
ピアノ譜②-２（全体的にｆで弾く）



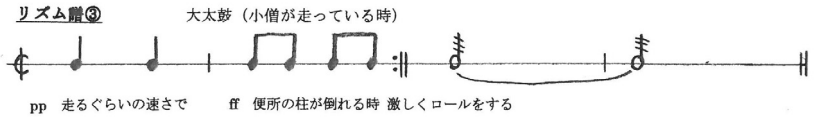
リズム譜①



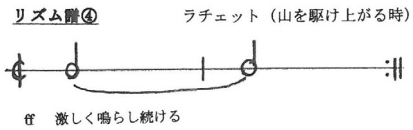
リズム譜②



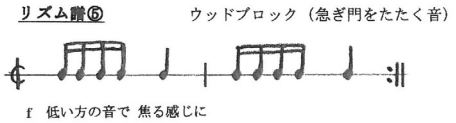
リズム譜③



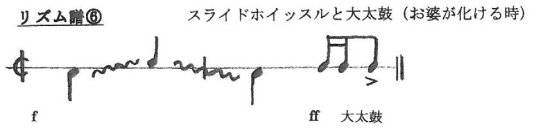
リズム譜④



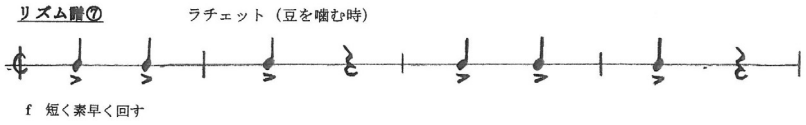
リズム譜⑤



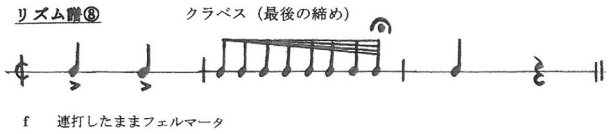
リズム譜⑥



リズム譜⑦



リズム譜⑧



資料1-1　「さんまいのおふだ」台本1ページ目

配役	セリフ	配役	動き	準備人物	BGM効果音
		先生	お寺の門と山を出しておく	物 お寺の門と山 人 小僧	ピアノ譜①又はリズム譜①ウッドブロック
ナレーター	むかし、やまのてらに、おしょうさんとこぞうがすんでいたって。てんきのいいひに、こぞうがいった。				
				人 和尚 物 梅の花	音止める
小僧	おしょうさん、やまへ はなきりにいってくるでの。	小僧	セリフを言ったあと、花をつみながら歩く		小僧が歩き出したら ピアノ譜①又はリズム譜①ウッドブロック
和尚	はやくかえってこいの。				
ナレーター	こぞうは はなをさがしさがし だんだん やまおくへいった。くらくなって、てらへ かえるみちも わからなくなった。	小僧	山の前へ 到着	人 小僧	
		先生	寺の門と小屋を入れ替える		
小僧	さあ、こまったこまった。 あれ。やまのむこうに あかりがみえとる。 いってみよう。	小僧	首を左右にふりながら 小屋の前まで、歩いていく	物 小屋 人 お婆	音止める
		お婆	いろりに火をたく		
小僧	こんやひとばん とめてもらえるかの。				
お婆	おう、とまれ とまれ。	先生	わらの敷物を敷いて、寝床をつくる	物 わら 人 小僧	
ナレーター	と いって とめてくれ、こぞうは、おばばのそばでねたって。	小僧	わらの上に、		
		お婆	小僧とお婆がねる		
	よなか こぞうが めをさましたら、おばばが こぞうのあたまを ぺらんぺらんと なめたり、おしりを ざらんざらん となでたりしおった。	お婆	お婆はおきて、なめるふりをする		
お婆	こぞうは うまそうだな。	お婆	顔に、口のさけた絵をつけた、マスクをする	物 マスク 人 あまだれ	
あまだれ	ザー ザー ザー ザー。 てんてん てらのこぞう かおみろ、かおみろ。	あまだれ	あまだれが「ザーザー」と言いながら登場		リズム譜②レインステイック 音止める
小僧	うわあ。	小僧	「うわあ」と言いながら、転がる		
小僧	おばば、おれ、べんじょへいきたい。				
お婆	おれの てのなかにしれ。				
小僧	もったいない、おばばの てのなかになんかしられない。もう たれそうだ。				
お婆	それなら いってこい。	お婆	小僧の腰に縄をつける	物 なわ	
		小僧	便所にまたがる	物 便所と便所の柱	
お婆	こぞう こぞう いいか。	お婆	縄をひっぱりながら言う		
小僧	まあだ まあだ ピーピーのさかり。	小僧	困った顔をしながら		
お婆	こぞう こぞう いいか。				
小僧	まあだ まあだ ピーピーのさかり。				

配役	セリフ	配役	動き	準備 人物	BGM 効果音
ナレーター	とても　にげることができない。	便所の神	小僧の横に立つ	㊉便所の神	
ナレーター	すると　べんじょのかみさまが　あらわれて。	便所の神	小僧にさんまいのおふだをわたす	㊊札三枚	ピアノ譜②又はリズム譜③大太鼓
便所の神	**この　さんまいの　ふだをもって、はやくにげていけ。**	小僧	腰の縄を便所の柱にしばって、札をもらってにげる		
お婆	**ごぞう　ごぞう　いいか。**	お婆	怒って、縄をひっぱる		音止める
小僧	**まあだ　まあだ　ピーピーのさかり。**	便所の神	柱が倒れた時、お婆をかこむ		ピアノ譜②又はリズム譜③大太鼓
お婆	**いつまで　べんじょにいる。**	お婆	教室の反対側まで　ゆっくり走る		
便所の神	**ガラヒチ　ガラヒチ。**	小僧	お婆の反対側から　白い札を、お婆にむかってなげてゆっくり走る	㊉白い札	音止める
お婆	**ごぞうめ　にげたか。　ごぞうまて　ごぞうまて。**	白い札	お婆の方へむかって　ゆっくり走る	㊊マットの山	ピアノ譜②又はリズム譜④ラチェット
小僧	**おおやまに　なあれ。**	先生	マットの山を　真ん中におく		
白い札	**おおやまに　なあれ。　おおやまに　なあれ。**	お婆	山を登りにくそうにしながらのりこえ　部屋のはしにいく		音止める
お婆	**こんなやま　なんだ。**	小僧	お婆にむかって、青い札をなげてゆっくり走る	㊉青い札	ピアノ譜②又はオーシャンドラムとレインスティックを激しく鳴らす
お婆	**ごぞうまて　ごぞうまて。**	青い札	お婆の方にむかって、ゆっくり走る		
小僧	**おおかわに　なあれ。**	先生	山をかたづけて、青いビニールテープの川を真ん中において、左右からゆらす	㊊青いビニールテープの川	
青い札	**おおかわに　なあれ。おおかわに　なあれ。**	お婆	ビニールテープの川を　渡りにくそうにして渡り　部屋のはしにいく	㊉赤い札	音止める
ゴーゴー	**ゴーゴー。**	小僧	お婆にむかって、赤い札をなげてゆっくり走る		
お婆	**おおかじに　なあれ。おおかじに　なあれ。**	赤い札	お婆の方にむかって、ゆっくり走る		
小僧	**おおかじに　なあれ。**	先生	川を片づけて　炎の絵を真ん中におく	㊊火の絵	
赤い札	**ボン　ボン　ボン。**	お婆	炎の絵の間に入り、あっち行き　こっち行きしてから　部屋のはしにいく		音止める
お婆	**こんなかじ　なんだ　ごぞうまて　ごぞうまて。**	先生	炎の絵をかたづけて　お寺の門を出してんぐり返し用のマットを敷く	㊊お寺の門	
小僧	**おしょうさま　はや　とを　あけてくんなせ。**	小僧	お寺の門を　たたく		リズム譜⑤ウッドブロック
和尚	**おうい　いま　おきて。**	和尚	しゃがんで　お寺の門に隠れたままセリフを言う	㊉和尚	ピアノ譜②又はアミホイルをたくさん使ってガサガサすると同時に大太鼓を横にしてロールする
小僧	**はや　はや。**	小僧	お寺の門を　たたく		リズム譜⑤ウッドブロック
和尚	**おうい　いま　ふんどししめて。**	小僧	お寺の門を　たたく		リズム譜⑤ウッドブロック
小僧	**はや　はや。**				

配役	セリフ	配役	動き	準備 人物	BGM 効果音
和尚	**おうい　いま　おびしめて。**				
小僧	**はや　はや。**	小僧	お寺の門を　たたく		リズム譜⑤ウッドブロック
和尚	**おうい　いま　ぞうりはいて。**	和尚	門の前にでてきて、小僧を門の中にかくす		
小僧	**はや　はや　はや。**	小僧	門の中にしゃがんで　かくれる		
お婆	こぞうが　ここへ　きたろうの。	お婆	はあはあ　としながらセリフをいう		
和尚	いや、おれしらねえな。				
お婆	そうせば、おれ　やさがしするが、いいかの。				
和尚	**いや、そのまえに、おまえとおれとじゅつくらべをしよう。**				
和尚	**おまえ、おおにゅうどうに　なれるかの。**	和尚	膝たちになって、背を低くする		リズム譜⑥スライドホイッスルと大太鼓
お婆	**そんなのは　たやすいことだ。**	お婆	でんぐり返しをした後　手をあげ背伸びをして　大きくみせる		
和尚	**よし、それなら　こんだ　ちいさな　まめになってみれ。**	和尚	膝たちをやめて　立つ		
お婆	**そんなのは、たやすいことだ。**	お婆	でんぐり返ししたら　豆をおいてから部屋の端にはける	㊐豆	リズム譜⑥スライドホイッスルと大太鼓
ナレーター	おばばは　くるんと　ひっくりかえってちいさな　ひとつぶの　まめになった。ほうしると　おしょうさまは　そのまめをくちにいれて　かじってのんでしまった。				
和尚	**ガリ　ガリ　ガリ。**	和尚	セリフを言いながら　豆をたべる		リズム譜⑦ラチェット
全員	**いちご　さかえた　なべのした　ガリガリ。**	全員	出てきて並んだら　そろえて最後のセリフをいう	㊎全員	リズム譜⑧クラベス
			お辞儀		

画：ユマニテク短期大学
安藤恭子教授